

令和7年度(2025年度)志賀中学校学校評価書										
大項目	中項目	小項目	自己評価 現 況			学校関係者評価 意見・提言等		今後の学校改善に向けて		
			小項目評価	中項目評価	大項目評価	小項目評価	中項目評価			
(協 同 学 び な 合 い び)	確かな学力	基礎学力定着のための指導方法の工夫と改善	B	A	○校内研究では昨年度に引き続き3つのチャレンジ目標を設定し、年間を通して授業研究を推進することができた。目標の1つに「タブレットを有効に活用し、“生徒の学びの可能性”を広げる」というテーマを設定し、授業での利用の定着、効果的な利用方法の共有に取り組むことができた。 ○毎週水曜日の“eライブラリチャレンジデー”を定着させ、タブレットを持ち帰り家庭学習に取り組む活動を継続して実施した。eライブラリ(学習アプリ)を活用し、基礎・基本を定着させる活動に取り組ませることができた。 ○授業の中で言語活動の機会を意図的に増やすことができた。説明しようとする生徒、上手く伝えられるようになった生徒が、少しずつだが増えているように感じる。 ●主体的・対話的で深い学びを進めるため、基礎学力の定着に向けた取り組み、工夫が必要である。 ●単元を計画するにあたり、学び合いや言語活動の取り組みを入れるなどの共通理解をしたい。	B	○宿題については、提出までの期間設定や、一度に提出する分量など、さまざまな工夫が必要である。 ○提出された成果物への対応や、難しいと感じている生徒への指導など、丁寧な取り組みが必要である。 ○授業と家庭学習、自主学習の取り組みをつなぎ、定着させるため、さらなる取り組みが必要である。 ○授業が中断することのないように、タブレットをふくむICT機器のトラブルを未然に防ぐことができる と良い。	○基礎学力の定着、言語活動の充実を意識した授業計画の立案に努める。 ○“eライブラリチャレンジデー”の取り組みでは、課題の内容や設定方法を工夫することで、タブレット端末(iPad)を活用した基礎・基本の定着を目指す。 ○家庭学習、自主学習を定着させるための取り組みを計画する。		
		家庭学習の充実	A	B						
		基礎・基本の定着のためのICT機器の活用	A	B						
言語活動の充実	A	B								
	A	A								
主体的・対話 的で深い学 び	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善	A	A	○校内研究を通して、授業の最初に「めあて」を提示することが定着し、効果的な「ふりかえり」の取り組みを共有できたことが良かった。 ○学習は学校の最も大切なところであるので、教師は生徒に対してしっかり関わってあげてほしい。 ○生徒がどのように感じているかをしっかり受け止め、生徒が主体的に取り組む授業を作っていくてほしい。 ○4人グループで活動することで生徒の相互理解が深まり、話しやすい雰囲気の中でそれぞれが前向きに取り組めているようすがうかがえた。	A	○授業の内容に適した「めあて」と効果的な「ふりかえり」を設定し、生徒の“学びの自己肯定感”を高める学習活動を目指す。 ○少人数グループでの学習活動を中心とし、「問い」や「課題」を工夫することで、“対話的で深い学び”につなげる。			
		主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	A	A						
			A	A						
体験活動	各種体験活動の積極的な実施	A	A	○志賀中学校の生徒の様子を見ると、職場体験などの体験活動には積極的に取り組んでいるように感じる。 ○志賀中学校区には体験学習の題材となる自然や歴史的なものが多くあるが、それらを生かした学習が行われていないように思う。小学校では行っているので、連携を図りながら志賀中学校でも取り組んではどうか。				A	○校外学習や修学旅行、職場体験学習などが3年間の系統的な取り組みとなるよう共通理解を進める。 ○「ふりかえり」や「まとめ」の時間を大切にし、学級や全校で発表する機会を確保する。 ○地域の資源を生かした学習について、その実現に向けて検討を進める。	
	活動後の発表会等学習のまとめ	A	A							
	体験学習の評価	B	A							
道徳教育の 充実	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳の実践力を育てる活動の実施	A	A		○保護者参観を道徳の授業(情報モラル)で実施できた。3年間で系統的に学習ができるように教材を準備することができた。 ○ローテーション道徳を行うことで、多くの生徒の意見を聞くことができた。授業内容についての意見交流ができたり、各クラスの実態を知ることができたりした。 ○内容項目を計画的に組み込んで指導を進めることができている。 ●学校の伝統的な道徳があるとよい。 ●動画等の視覚的教材があれば効果的な授業ができると思う。	A	○ローテーション道徳や、視聴覚教材を活用し、週1時間の道徳を計画的に実施する。 ○保護者に向けた道徳(情報モラル)の授業参観を、3年間で系統的に実施する。			
	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	A	A							
	保護者等への道徳科の授業公開	B	B							
体力づく り	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	A	○お昼の放送では、その日の献立にまつわる地域や行事、栄養に関する情報が伝えられ、食に興味を持ちやすい環境が整えられている。保護者にも連絡アプリで配信することができている。 ○毎日の献立を気にしたり、栄養素について話したりする生徒も見られ、食育の意識が高まったように感じる。 ○学校保健委員会の講話をきっかけに、生徒が自分自身の睡眠について意識し、良質な睡眠について考えるきっかけができた。 ●給食指導については、クラスによって指導がバラバラになりつつあるように感じる。				A	○欠席の生徒が例年に比べて多いような気がするが、インフルエンザへの罹患・感染予防、早退の対応が難しい場合など、様々な理由があることが分かった。 ○給食指導については、職員間の共通理解を進め、足並みをそろえられるよう改善してもらいたい。	
	体力づくりを推進する運動実技	A	A							
	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んでからだを動かそうとする意欲の育成	A	B							
計画的・組織 的計画	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	A	A		○継続した内容での校内研究に取り組むことで指導体制・指導方法の工夫改善に努め、中堅教員が中心となって若手教員の見本となることで、組織的な教育力の向上を目指してきた。 ○会議資料のデジタル化により、教員間で即時に周知、共有、確認、蓄積ができている。 ○AI採点ソフトの正式導入により、テストの採点時間が大幅に短縮された。 ○校務支援ソフトや保護者連絡アプリの積極的な活用により、校務の効率化を推し進めることができた。 ●若手教員の占める割合が増加する中、教科指導や生徒指導などさまざまな分野におけるノウハウの継承が課題である。	A	○チャットGPTについて、生徒はどの程度利用しているのか。利用する際には、検索結果を鵜呑みにするのではなく、ファクトチェックを行うことで正しい情報を選択するなど、情報教育を並行して進めてほしい。生徒指導上も重要であるし、防犯にもつながるのではないかと。 ○増加する若手教員への指導、フォローの体制はどのようになっているか。いろいろな場面で、様々な研修がなされていることは、とても良いことだと思う。			
	教職員の指導力及び組織的な教育力の向上	A	A							
	ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善	A	A							
育ちと学 びを支 える連 携	保護者の子育てに対する積極的な支援	B	B	○学期に1回の授業参観をはじめ、部活保護者会(見学)や志賀中祭(合唱・体育祭)など、参観の機会を持つことができた。 ○防犯・薬物乱用防止といった啓発活動や職場体験学習など、様々な場面で多くの協力・支援をいただいていることを実感している。 ○今年度の避難訓練では、事前に周知することなく抜き打ちで、昼休みの時間帯に訓練を実施した。避難の仕方や危険な状況への対処法など、生徒が自主的に学ぶことができたと感じている。避難経路の確認や避難の仕方など生徒の訓練だけでなく、教員の役割確認や通報訓練も合わせて実施する事ができた。 ●災害だけでなく、不審者の侵入を想定した訓練も必要である。				B	○保護者の連絡や相談など丁寧に対応できていて良い。 ○保護者・地域交流がコロナの回復から少しずつ増えている。 ○昼休みに避難訓練を実施するなど、実際の場面を想定した防災教育を推進している。	
	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A	B							
	防災教育の推進と安心・安全な学校づくり	B	A							
組織的体制の 充実	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	B		○次年度入学予定の小学校6年生への事業として、例年実施している小学校への出前授業に加えて、中学校に招いての入学説明会を実施することができた。 ○校区研では年間3回の部会別研修と、夏期休業中の合同研修会を実施することができた。 ○3年生の「ふれあい体験学習」、2年生の「職場体験学習」で地域の保育園・幼稚園での体験に取り組むことができた。 ○保幼小中の保育・教務主任が集まり、次年度の行事予定や総合的な学習の時間の取り組みについて共有することができた。 ●小学校への出前授業と入学説明会への参加(小6)は、どちらか1つでよいかもしれない。	B	○小中連携で新たに小学6年生が学校見学できる機会できて良かった。 ○職場体験やふれあい体験で幼稚園・保育園との交流があるのは良い。 ○小中で教員の授業を見る機会が現状、小中連携での中学校から小学校6年生の出前授業と授業見学のみのためもう少し教員間の授業交流の機会が増やせると良い。			
	校種間の授業公開や合同研修会	B	B							
	保幼小中の連携	B	C							
組織的体制の 充実	個別的教育支援計画及び個別指導計画の作成と活用	B	A	○当該学年だけでなく、生徒指導主事や子ども支援コーディネーターを中心とした組織的な対応を心がけることができていく。 ○レインボー(校内支援ルーム)の活用や、家庭訪問の頻度を増やすことで、不登校生徒(学校に来にくい生徒含)への対応を充実させることができた。 ○教育支援ルーム「中学校ウイング和邇」、民間の支援団体などを活用しながら、継続した学力保障に取り組んでいる。 ●生徒指導については、全校での協力体制をさらに進めていく必要を感じている。 ●世の中の変化(SNS、生成AIなど)に対応できるような研修を取り入れたい。				A	○学習(勉強)を教えることはもちろんであるが、子どもに関わることが役割と思ってもらいたい。 ○良い情報もちろんであるが、良くない状況を発信してもらうことで、志賀中学校の現状を知り、正しい方向へと協力的な家庭も増えてくるのではないかと。	
	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	A	A							
	家庭・地域・関係機関との連携による指導	A	A							
学校満足度	生徒の学校満足度	組織的・計画的な特別支援教育体制	A		A	○生徒理解の取っ掛かりの一つとして、アンケートで生徒と先生の関係性について問う内容があってもいいのではないかと(小学校では児童が先生を評価するといった内容がある)。 ○関わるということと大変な部分もあるが、寄り添うという姿勢が大切である。	A			○個別の支援計画を効果的に活用できるように、専門家を招聘して研修会を実施する。 ○特別支援教育コーディネーターと担任が連携しながら、生徒・保護者に対する計画的・継続的な支援を実施する。 ○通級指導教室を一層効果的に活用できるように努める。
		生徒理解を深めるための研修体制(巡回訪問を含む)	A		B					
			A	B						

*各種アンケートにおいて「かなりできている」「ほぼできている」が概ね80%以上がA、60%以上をBとする。